

第70回“社会を明るくする運動”作文コンテスト 福島県推進委員会優秀賞受賞

県が主催する第70回“社会を明るくする運動”推進委員会作文コンテストで
小野小学校6年の草野結衣さんが優秀賞を受賞しました。
受賞作品をご紹介します。



いじめをなくす二つの目をもつ

小野小学校 六年 草野結衣

私と同じくらいの子供や生徒が、同級生や部活動の仲間からいじめを受けて自害した、というニュースを耳にします。そのたびに、かわいそうという気持ちと悔しいという気持ち、どうしてなんだろうという疑問など、いろいろな気持ちでござや混ぜになって、何だか訳が分からなくなり、考えることをやめてしまいがちです。むしろ、そんなこと信じたくない、という思いが強いため考えずに逃げてしまっていたのかも知れませんが、でも、今回はもう少し深く考えてみようと思いましたが、なぜならば、私の周りにいじめはないと思っていても、もしかしたら私がいじめられていないだけで、いじめられたと感じている友達が多くいるかもしれないからです。そう考えると、少しこわくなりますが、私たちにできることを考えて実行していくことで、いじめを予防したりなくしたりできると思います。そこで、自分のこれまでの体験を振り返って考えてみたいと思います。私は数年前仲間はずれにされたことがありました。最初の頃はがまんしていましたが、だんだんつらくなってきてお母さんに相談しました。すると、お母さんは真剣に私の話を聞いてくれて、これからどうしたらいいのかと一緒に考えてくれました。お母さんは、「もう一度、その子とちゃんと話をしてみなさい。」と、言ってくれたので、次の日勇気を出して話をしてみました。今の自分の気持ちを正直に伝えたり、相手の話を聞いたりして、お互いに言いたいことを話したら、「そうだったのか。」と、相手の気持ちや分かったこと、お互いに誤解していたことに気づき、仲直りできました。私が通っている小学校は、今年の四月から統合して新しい小野小学校になりました。私は、統合する前から新しい友達ができるのをとても楽しみにしていました。しかし、少人数の学校から大きな学校に来て、新しい学級になった人はきつと不安な気持ちでいっぱいだったのではないかと思います。そう言えば、六年生になったばかりのころ、私もふくめて何人かの女子が、すごく気をつかっていたことを思い出しました。その中でも夏井第一小学校だったAさんと、飯豊小学校だったBさんは、とても不安がっているように見えました。でも、私は自分から声をかけることができず、どんな風に接したらいいのか迷っていました。なかなか距離を縮めることができずに、気の合う友達といつも一緒に過ごしていたある日、先生から、「Bさんが、結衣さんに笑われたことが気になって、どうしてなのか理由が分からなくて、悩んでいるみたいよ。」と、言われ、「えっ。」と、おどろきました。私は、友達とふざけていて、その勢いでBさんの顔を見て笑ってしまったのです。Bさんを傷つけるつもりは全くありませんでした。軽い気持ちで顔を見て笑ったことが、相手にいやな思いをさせてしまったのです。先生は、すぐに私とBさんと話をする場をつくってくれました。私は、その場で理由を話し、「Bちゃん、いやな思いをさせてしまったすみませんでした。」と、お詫言いました。すると、Bさんは、「大丈夫だよ。」と、笑顔で許してくれました。「よかった。」と、とても安心したのと同時に、自分が気付かないうちに、友達を傷付けてしまったことを深く反省しました。お互いまだ気持ちが通じていない時の出来事だったけれど、そんなときだからこそ、言葉や行動に気を付けなければいけないと思います。その後は、Bさんに自分から声をかけて一緒に遊んだり、他の友達と一緒にみんな話をして、だんだんと仲良くなりました。

私は、自分の体験からいじめをなくしていくためには、二つの目をもつことが大切だと考えました。一つ目は、自分の目の前や近くで、悩んだり困ったりしている友達がいなかを見つけてあげることができる目です。二つ目は、相手の心の中を読み取ることで、相手の行動や表情から、何か悩んでいるのではないかと、だれよりも早く気付くことのできる思いやりの目をもつことが大切です。もしも、少しでもおかしな感じがしたら、声をかけたり、先生や家族にすぐに相談したりすることが、解決への一番の近道だと思います。

このように、自分達ができることを実行していくことが、いじめのない明るい社会につながるのではないでしょうか。私は、これからは二つの目をもって、友達を決して傷つけないように心がけていきます。